

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることが
できるまちづくり



大東市



- 令和3年1月末現在
- 人口 119,452人
- 高齢化率 28.9%
- 市の面積 18.27平方km
1/3が山間部

生活サポート事業

住民主体の生活支援
平成28年度スタート

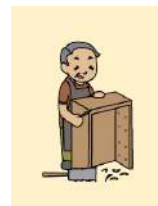
家事援助

介護保険で認められているサービス



生活支援

窓ふき、大型ゴミ、
庭の手入れなど



利用料30分以内250円

○謝礼金（66%が選択）

○時間貯金（34%が選択）

令和3年1月現在 生活サポーターの登録は772人

利用者120人（要支援レベルが殆ど、自立や介護の方も利用中）

市民サポーターが行くことによりこんないいことが 起こっています！

- * 歳が一緒ぐらいの人が来るなら自分でするわという人がでてきました
- * 家で掃除してもだれもありがとうと言ってくれないが利用者さんに感謝してもらいやりがいを感じる
- * 介護保険ではできないところがあるがサポーターさんは線引がなく使いやすい
- * 入院し退院が決まったとき、認定がなくてもすぐにサポーターさんが来てくれてとても助かったと喜んでいただいた
- * 地域の支え合いが生まれます
- * 元気な高齢者と虚弱な高齢者が一緒に掃除したり、自立に対する意識が高まります

この活動は税金や介護保険は使っていません。介護保険の制度が変わっても継続することができます！地域でサポート活動が定着すれば、安心して最後まで自宅で生活できる。

運営について工夫していること

- サポーターさんへお願いする時、10分以内で行けるところにしている
- 空いている時間で自分のできることをさせていただくという気持ちで活動、利用者さんも来ていただきありがとうございますとお互いが感謝して・・・
- 初訪問のあとには、どうでしたかと声をかけ、喜んで活動していただけるよう心がける。
- 自立に向けた取組みとしてサポーターさん・利用者さんにも認識していただき、利用者さんができることを取り上げない、できないことだけ、させていただくとの考え方を共有している。利用者さんが一緒に掃除するなど自立に対する意識が芽生えてきます。
- 男性宅には男性に行ってもらうことにより、男性だからしないという考え方がなくなります。話が弾んだりといい効果が生まれます。

養成講座・市役所にて



毎月、広報誌にて掲載
1時間半コースで受講しやすく、最低限の内容



茶話会・手芸教室



取材・クローズアップ現代や韓国メディア



ママボノの方々と高齢者が便利で楽しく 使えるためのスマホ講習会用テキストの作成

コロナ禍の中、スマホを活用している人は、お買い物・ビデオ通話・YouTubeなどを活用し、そんなに困らない生活をしていた。スマホを活用していない人は、孤独感を感じ、とても不自由な生活だったとお聞きし、今後はスマホを活用した生活支援が必要であると確信した。そこで、誰でもがわかりやすいテキストの作成をお願いした。



専門用語ではなく、やさしい文章で解説



3-1) LINEって何ができるの？

電話ができる



ビデオ電話が
できる



メッセージの
やりとりができる

写真や地図を
送れる



家族とグループで
連絡できる



友達数人と日程
調整ができる

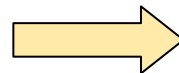
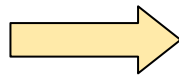
スマホサポーター育成事業！

スマホサポーターを養成し、個別（自宅）にスマホ教室を開催する。
スマホの活用により「高齢者の社会的孤立」を解消する。

スマホサポーター
養成講座

スマホサポーター登録

自宅にお伺いし
個別指導



講習内容

- ①現在の地域課題
地域のつながりの希薄化による高
齢者の社会的孤立
- ②事業の目的
高齢者の社会的孤立を解消する



- ③地域活動や要援護者支援に適した内容
マップ・便利なアプリ、LINEなど



大東市のまちづくり

みんなが、自分が、そして・・・

子どもや孫が高齢者になっても

安心して暮らせるように！



ご清聴いただき

誠にありがとうございました。